

アリーナ等の住民投票へ シンポジウム開催決定

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

7月20日、豊橋では「多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備運営事業」についての**住民投票**が行われます。ここでの中心的なテーマは、「アリーナ建設への賛否」です。そこで、今回は、国のスタジアム・アリーナについての政策を解説します。

《政府の方針》

スタジアム・アリーナは、多世代が集う交流拠点として、**地域活性化の起爆剤**となり得る施設です。「集う場所」たるスタジアム・アリーナを重視し、政府の未来投資戦略2017においても、「2025年までに20か所のスタジアム・アリーナの実現」を目指すことが具体的な目標として掲げられています。《アリーナが地域にもたらす効果》

スタジアム・アリーナは、「観るスポーツ」などの価値や潜在力を最大限発揮させるための舞台であり、定期的に数千人、数万人の人々を集めることができる集客施設です。飲食、宿泊、観光などの周辺産業への波及的効果が見込め、新たな雇用も創出します。

さらに地域を拠点とするスポーツチームがあれば、これらの効果が持続的に地域にもたらされることになり、スタジアム・アリーナは、地域経済の持続的発展を実現する重要なインフラとなります。

《自治体が意識すべきこと》

自治体は、右記の効果を認識し、その効果を最大化することが重要となります。そのためには、アリーナ計画の立案や運営において、アリーナを拠点とするスポーツチームなどと早期に連携し、その魅力を高める提案などに耳を傾け柔軟に対応することが求められます。スポーツチームは発信力やアピール力を有し、強力な行政のパートナーとなりうる存在です。社会貢献活動を行ったり、所属選手が様々な社会問題について発信したりすることで、社会課題の解決に繋がることから、アリーナはこのような公益性のある波及効果を生み出す重要な拠点となります。

《豊橋のアリーナ建設》

豊橋市は、他の地域と比較して外国人の流入が多く、総人口の減少幅は小さいものの、日本

人住民の人口に着目すると、特に若い世代の市外への転出が目立ちます。アリーナは、街の持続的発展に繋がる大きな可能性を秘めた施設です。スポーツだけでなく、コンサートや各種イベント、また防災拠点となる**多機能・多目的型**であり、豊橋公園に設置される**街なか立地型**です。交流人口の拡大だけでなく、**多世代が集う重要な交流拠点**となることが期待されます。アリーナを中心として、地域全体が一体となり活性化する、それこそが私たちが描く未来の豊橋の「希望の光」ではないでしょうか。

【シンポジウム開催】

住民投票を目前に控え、シンポジウムを企画しました！皆さんと豊橋の未来に向けた具体的なアイデアを共有し、新しい希望と可能性を見出す機会にできればと願っています。

6月29日14時～16時

豊橋市民文化会館
「スポーツ・エンタメ×豊橋の未来を考える」

前衆議院議員

山本左近

不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

シンポジウム開催

スポーツ・エンタメ
×
豊橋の未来を考える
シンポジウム6月29日
14時～16時
豊橋市民文化会館
(リハーサル室)

シンポジスト

最上 絃太
スポーツ・エンタメプロデューサー

シンポジスト

井上 純
音楽プロデューサー

シンポジスト

小林 佳雄
市民団体「新アリーナを求める会 Neo」代表

モデレーター

山本 左近
元F1ドライバー 前衆議院議員

最上 絃太 Kota Mogami スポーツ・エンタメプロデューサー
一般社団法人スポーツを止めるな・共同代表理事。慶応義塾大学院メディアデザイン研究科・研究員。
大手広告代理店勤務を経て、2022年から現職。代理店勤務時代には東京オリンピック招致活動やパブリックビジネスに従事。在職中の2020年にはコロナ禍を契機に学生アスリートに成長を支援する「一般社団法人スポーツを止めるな」を創設。スポーツを止めるなが立ち上げた「1252プロジェクト」は2024年にIOCからアジア初となるイグナイトアワードを受賞。また、スポーツ×ソーシャルがテーマであるIOC主催の第1回 Olympism365Summitにはアジアから唯一の招待特で参加。ビジネス経験と、慶応義塾大学院における研究、非営利法人活動を推進するスポーツ・エンタメプロデューサー。



井上 純 Jun Inoue
1974年生まれ。埼玉県秩父市出身の音楽プロデューサーであり、株式会社Amadeus Code 代表取締役。
アメリカ・マサチューセッツ州のバークリー音楽大学にて打楽器を専攻し留学。帰国後は約5年間にわたりミュージシャンとして活動した後、2000年にジャニーズ・エンターテインメント（現・ストームレーベルズ）に音楽ディレクターとして入社。嵐、KAT-TUN、ジャニーズJr.などを担当し、オリコンチャートでトリプルプラチナムを含む55作品が1位を獲得。手がけた作品の累計売上は、シングル約1,000万枚、アルバム約500万枚、DVD/Blu-ray約700万枚に上る。2012年に独立し、株式会社ジェイアイ（現・Amadeus Code）を設立。同年、慶応義塾大学大学院法務研究科に入学し、2015年に修了。法務博士（専門職）を取得し、現在に至る。



小林佳雄 Yoshio Kobayashi 市民団体「新アリーナを求める会Neo（ネオ）」代表。
愛知県豊橋市出身。慶応義塾大学商学部卒業後、首都圏で洋食・フランス料理店等を展開するコックドール株式会社に入社。2年後、同社を退職し、株式会社みなどて坂前修業を開始。2年後、母が経営する株式会社げんじに入社。当時、低迷していた売上を一気に伸ばし、1980年、代表取締役社長に就任。株式会社げんじは、1997年に、現在の株式会社物語コーポレーションに社名変更。現在「Smile & Sexy」を経営理念に「焼肉きんぐ」「丸源ラーメン」などを全国展開している。2021年9月株式会社物語コーポレーション退任。2025年5月市民団体「新アリーナを求める会Neo（ネオ）」代表。

未来への希望

豊橋市は、他の地域と比較して外国人の流入が多く、総人口の減少幅は小さいものの、日本人住民の人口に着目すると、特に若い世代の市外への転出が目立ちます。

来る7月20日、豊橋では、アリーナや豊橋公園東側エリア整備などの賛否を問う住民投票が行われます。一豊橋の可能性一その可能性を最大限に広げ、豊橋の明るい未来をつくるために「何をすべきか」今一度、皆で考えるシンポジウムを企画しました。

今回のパネリストは、スポーツや文化、エンターテインメントの分野で活躍している皆様です。これらの分野は、地域住民の新しいアイデンティティを形成し、自己実現の機会を提供する鍵となります。

スポーツやエンターテインメントを通じ、多様性を尊重しながら、地域全体が一体となり活性化する、それこそが私たちが描く未来の豊橋の「希望の光」ではないでしょうか。

アリーナ建設を通じて、若い世代に新しい夢を。そして、その夢が豊橋から世界へと羽ばたく未来を期待しましょう。

このシンポジウムが、豊橋の未来に向けた具体的なアイデアを共有し、新しい希望と可能性を見出す機会となることを心から願っています。

山本左近